

E G C G (エピガロカテキン没食子酸塩：緑茶成分) が解毒サポート

2007年8月21日

アリゾナ州トゥーソン：緑茶のポリフェノールが、解毒酵素が少ない人のそれを増やし、発がん性毒素に対する代謝抵抗を強めるかもしれないことが、アリゾナ州立大学アリゾナ癌センターの研究で分かった。

国立癌研究所の協力の下行われたこの研究では、42人の健常者のボランティアを募り、お茶またはお茶関係の食品を4週間避けてもらった。4週間後、空腹時の血液サンプルが採られ、解毒酵素の主なグループであるグルタチオンS-トランスフェラーゼ (G S T) の活動とレベルを査定した。参加者は800mgのE G C Gを標準製剤として緑茶ポリフェノールを4週間の間与えられた。その緑茶カテキンのレベルは、8～16杯分の緑茶に相当する。

結果、血液リンパ球のG S Tの活動は、 30.7 ± 12.2 から 35.1 ± 14.3 nmol/min/mg protein と改良された。G S T活動のベースラインが低い個人の間で統計的に有意な増加が観察された。しかし、G S T活動のベースラインが高い個人の間では統計的に有意な減少が観察され、研究者達はそれを不規則変動が原因だとした。研究者たちは、緑茶ポリフェノールは解毒能力が低い人々の発ガン物質の解毒力を高めるという結論を出した。